

週刊センターニュース No.3

Center
Research
Higher Education
Evaluation
Student
Support
System

第3号(2004年3月29日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第11回 日時 4月1日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 総合教育棟南棟2階 A11 演習室

発表者: 早田幸政(大学教育開発・支援センター)

題目: 大学評価<番外編>

- ・FDが、研究の活性化のため?
- ・裁判所が、大学評価?
- ・大学評価が、WTO(世界貿易機関)に関係?
- ・金沢大は、今後20年で何回大学評価を受ける? 10回ぐらい?

第12回 日時 4月8日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 総合教育棟南棟2階 A11 演習室

発表者: 堀井祐介(大学教育開発・支援センター)

題目: パワーポイントの初歩

愛媛大学農学部附属農業高等学校を訪問調査して - 高大連携を考える その1 -

センターニュース 2(3月22日発行)のセンター教員活動記録に記しましたように、3月18日に、愛媛大学農学部附属農業高等学校を訪問しました。そのホームページ

<http://www-hi.agr.ehime-u.ac.jp/>の「学校長より」に「平成7年度から農業高校と普通高校との長所を最大限に取り入れた教育体制として総合学科制を導入し、その充実に教職員が一丸となり、また、農学部の大学教官も授業を担当するなど、農学部附属という利点を最大限に生かした教育体制を整えています。この中で生徒の個性を最大限に生かし、個々の生徒の長所を引き伸ばす教育を行っています。>とありますように、いわゆる「高大連携」にいち早く取り組んだ高校の一つです。平成10年度から3年間は、文部省の研究開発校を受けそこで実践された「総合的な学習の時間」導入にあたっての先進的なモデル校として注目され、平成13年度から3年間は文部科学省教育開発研究開発学校に指定され、「高・大連携 生涯学習社会を見通した高校・大学の連携、接続の在り方の研究開発」をテーマとして、今年3月まで活発に取り組んできた高校です。

対応して下さったのは、副校長の久山出先生と、取組の研究主任である小田清隆先生でした。小田先生(本センター主催の第一回共同学習会で講師を担当して下さった本学教育学部附属高等学校の山本吉次先生によれば、優れた実践をしておられるということで高校教育界では著名ということですが)は、こちらの質問に対して非常に適切な回答をしていただきました。私自身、『文部科学教育通信 大学教育をメインとしたテーマアップ通信』第94号(本年2月23日号)に、「大学教育の改善と高大連携」という一文を載せていますが、小田先生の実践経験に裏打ちされた種々のご指摘から、高大連携はきちんと取り組めば実り多いものになるという実感を得ました。

平成13年度から毎年度刊行されている、研究開発実施報告書全5冊を、頂いて帰りました。「教育研究上、真に必要な場合は存続することが適当である。それ以外の場合は、段階的に縮小して廃止等を検討することが適当である」との(「今後の国立の教員養成系大学・学部のあり方について」文部科学省への「国立教員養成系大学・学部に関する懇談会」報告平成13年11月22日)言葉を引用して始まる報告書は危機感をばねにした改革の現時点での集大成と思われます。法人化後の金沢大学でも各教職員が、今の仕事は「真に必要なかどうか」、「どのように社会に、学生に役立っているか」を常に自ら問わねばならないはず。貴重な実践報告を少しずつ読みながら、本学の教育

改善に役立たせねばならないと考えています。

なお、今回の訪問でいただいた実施報告書等を含め、当センターの教員が活動記録で紹介した(またこれから紹介していく)訪問調査等で得た資料は、全て、当センターで保管します。各部署でのFD、あるいは各教職員の個人的な研鑽のための資料としていつでも貸し出しますので、遠慮なくお申し出ください。(文責 青野)

共同学習会がスタートしました。

本学の教員、事務職員が教育改革について、部局の垣根を越えて自由に議論し、知恵を出し合う場として、共同学習会を企画しました。3月22日から5日連続で10回にわたり開催しました。教育学部附属高校の山本先生、櫻田先生にはそれぞれ歴史、化学の授業の中身について詳細に紹介していただき、緻密な授業設計、そして何よりも生徒の目線に合わせた教授技法はほんとうに心に残りました。本センターの堀井、西山は、パワーポイントに同期した授業のビデオ記録や最新の教授ソフト、インターネットの活用などについて紹介しました。総合メディア基盤センターの先生方とマルチメディアの授業への活用について、全学的な取り組みへと発展させる必要性を議論することができました。入澤先生には東京女子体育大学での、教員と事務職員のチームワークに基づく学生募集、大学広報について詳細なノウハウをご報告いただきました。ご参加いただいた入試課の職員の方々と本学での学生募集について意見交換できたことも大変有益でした。共同学習会は、4月から毎週木曜日5時限目に継続して開催いたします。ぜひご参加ください。また、議論のテーマも募集しております。この共同学習会をご活用ください。(文責 西山)

共同学習会の資料等について

時間の都合等で共同学習会に参加できなかったという教職員の方には、当日配布資料があった場合は残部の限りで提供します。また、学習会当日、ご報告いただいた先生のご了解を得てテープで記録を残している場合には、VHSテープをお送りいただければ、ダビングいたします。いずれも当センターの青野(角間 5773)までご連絡ください。

第2回北陸地区国立3大学教養教育研究会に参加して

3月27日、金沢市内のホテルで、第2回北陸地区国立3大学教養教育研究会が開催されました。富山大学、福井大学から、教養教育(共通教育)の実施体制およびカリキュラムの現状と課題について報告がありました。続くフリートークでは、それぞれの大学の実施体制の特色について活発な議論が行われました。外部資金獲得などの研究評価とともに、教養教育への貢献もまた正しく評価されることにより全学出動態勢の発展が望めるという意見があり、大変参考になりました。専任教員が配置された大学教育センターは、3大学では金沢大学にのみ設置されており(本センター)教養教育機構、各学部をサポートし、金沢大学における学士教育の発展に果たすべき本センターの責務の大きさを痛感しました。また、本センターの早田は、来るべき大学認証評価について概説するとともに、金沢大学における大学評価構想の現状を整理しました。この内容の一部は、4月1日の本センター主催共同学習会で話題として取り上げられる予定です。さらに共通教育室の松井室長より、北陸地区の6大学を結ぶ遠隔授業システムの立ち上げに関わる今後の課題が説明され、意見交換がなされました。(文責 西山)

センター教員活動記録(3月22日~3月28日分)

- 2004.3.22-26 平成15年度大学教育開発・支援センター共同学習会開催
- 2004.3.27 第2回北陸地区国立3大学教養教育研究会へ参加
(テーマ:国立大学法人化後の教養教育の在り方)
場所:ホテルイン金沢(青野、早田、堀井、西山)
- 2004.3.28 大学評価学会設立大会へ参加 会場:キャンパスプラザ京都(堀井)

センター来訪者記録(3月22日~28日分)

- 2004.3.24 長崎大学大学教育機能開発センター全学教育研究部門長 高橋正克教授来訪。青野が対応。主たる調査内容は本学における「学生による授業企画科目」についてであった。